

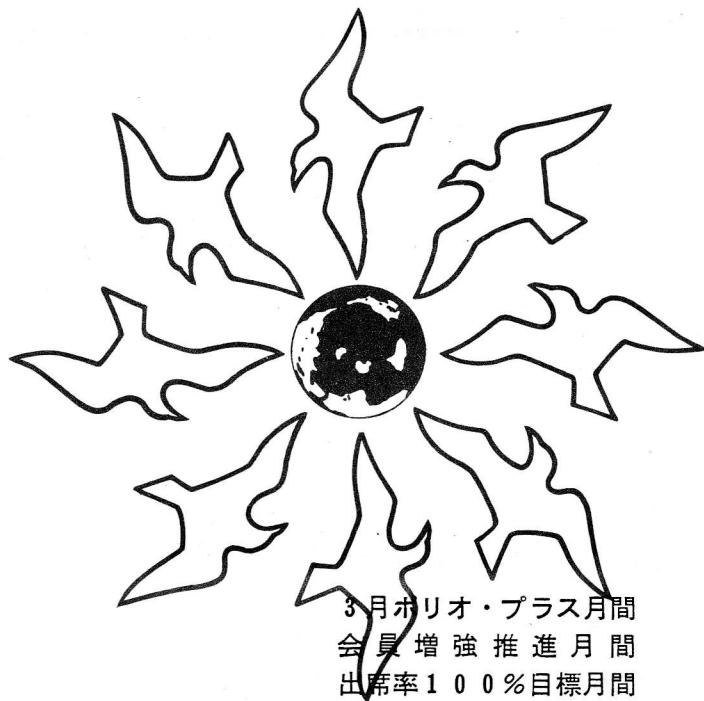
THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLY BULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

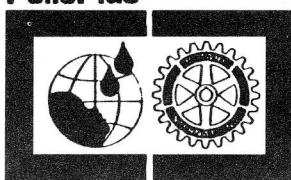
印
司
様
中

PUT LIFE INTO ROTARY- YOUR LIFE

ロータリーに
活力を--
あなたの
活力を



PolioPlus



●次回卓語予定者

1989.3.31.(金) 第72回例会

本日のプログラム

1. 点鐘
2. ロータリーソング(我等の生業)
3. 「四つのテスト」唱和
4. 食事
5. 会長の時間
6. 幹事報告
7. 各委員会報告
8. 会員卓話
9. 点鐘

佐土原ロータリークラブ

例会日 毎週金曜日(12:30~13:30)

例会場 ホテル神宮寺 TEL 0985-73-0015

事務所 〒880-03 佐土原町大字上田島1883番地
TEL 0985-74-1078

会長	山脇	忍
副会長	池田仁志	
幹事	斉藤數馬	
会計	佐野保	
会報委員長	垂水敏雄	

第71回例会記録（平成1・3・24）

会長挨拶 山脇 忍

皆さん 今日は。 本日は第71回例会であります。

前回は皆さんの賛同を得て、長時間にわたり「会員増強」並びに「ポリオ・プラス」に関するフォーラムを開催しました。

会員の皆さんには、熱心な討議を重ね、活発なしかも有意義な意見を数多く発表していただき感謝しているところであります。

熱中のあまり時間の経つも忘れ、予定時間を2倍以上も超過し、それに懇親会を加えますと5時間近くに及んでおります。

殆どの会員に参加いただきましたので、再度申し上げることもないと思いますが、週報に掲載し、時々皆さんに目を通して貰い、積極的に実践に移していただくことを切に願っています。

○第一にポリオ・プラスですが、会員個々が寄付することの必要性については十分理解されており、その目標額もほぼ達成されつつあります。

この活動は、ただそれのみでよしとするべきか、そこに問題が残されています。

つまり、今後は外部広報に力を注ぐべきではないかということです。

それこそが本来のロータリアンの活動ということができます。

その方法論となりますと難しい面もあり、広報紙を行政や公共団体、その他各種の団体に配布することも考えられますが、具体的な事柄については、更に広報委員会の方で検討していくことになりました。

結論が出ましたら、早めに発表してくださるならばありがとうございます。

○第二に会員増強であります。

先ず最初に、会員増強について個々の責務について申し上げます。

ロータリーの目的の本質は、個々による奉仕の理想の実践という責任の受諾にあります。

そして、また重要なことは、この中には個々のロータリアンが他の人たちとロータリーを分かち合い、かつ適格者をロータリー・クラブ会員に推薦することによって、ロータリーの拡大に助力するという義務も含まれていることを認識することです。

ロータリー・クラブが地元地域社会と完全なつながりを持ち、かつ、地域住民の要望に応えるためには、クラブの区域限界内に事業場または住居を持つ適格な人物を一人残らず会員に迎えることが極めて大事であります。

このことは、新しく改正された職業奉仕活動を推進するうえにも必要なことです。

さて、私どものクラブにおいては、会員増強委員会の積極的な活動、冉三の会員増強月間の実施にも拘らず、その成果は必ずしも満足すべきものではありません。

佐土原町という地域特性に起因するところも大きいと考えられます。

地元企業が少なく、宮崎市のベット・タウンとして発展している状態では、ロータリアンとしての有資格者が少ない状況にあります。

その素地の中で新会員候補者を探すことは困難であり、会員個々が第一の責務として余程力を入れて取り組まない限り、前進はないものと考えられます。

皆さんと共に再度努力しましょう。

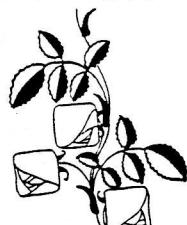
〔会員増強についての総括〕

1. 会員増強の現実的目標の具体的設定
2. 会員増強に関するクラブ・プログラムの計画
3. 恒久的かつ最新の充填・未充填職業分類表を整備する
4. 未充填の職業分類は少しづつ分けて公表する
5. 未充填職業の把握と、それら業種の該当者抽出
6. 地域に有益な業種で、代表者をクラブに入会させるべき業種を、度々調査する
7. 「会員増強月間」を設ける
8. 新入会候補者の選定と、それに接触するクラブ会員の決定
9. 全会員が最低一人以上の新会員を推薦する
10. 4名で1名の新会員を獲得する
11. 新富町の新入会員を獲得するためのプロジェクト作成
12. 新入会候補者の説得に、第三者（他のクラブのロータリアン、その他）にお願いするこのような、知人を利用した2段階説得はしばしば効果的である
13. 会員増強委員長を直ちに選出する（坂本委員長の転出に伴う後任）

◎会員増強委員長に日高豊輝会員が選出されました。

山協会長から、会員増強委員長後任に、現副委員長の日高豊輝会員の推薦があり、出席全会員が直ちに賛同して、選任が決定しました。

会員増強は全会員の積極的な協力が必要ですので、新委員長を中心として、頑張りましょう。



幹事報告 代理 濱田松太郎

1. 延岡RCから、次のように例会変更の通知がありました。
 - ・3月29日 18:00より 延岡天照閣
 - ・4月12日 12:30より 西階町「ロータリーの森」

2. 児玉武文会員から、ご令嬢が大学を卒業され、めでたくご就職も決まられたお祝いとして、多額のハッピーをいただきました。ご報告とともに、心から御礼申し上げます。

池田仁志副会長より

佐土原RCのポール・ハリス・フェロー第1号の栄誉に輝く山脇忍会長に、ロータリー財団から「感謝状・メダル・バッジ」が送付されましたので、本日贈呈式を行います。

崇高な奉仕の理想の実践に率先垂範される山脇会長に、全会員が最大の賞賛を捧げます。

3月17日の坂本勝彦会員の送別会には、多数のご出席をいただき、ありがとうございました。皆さんのおたたかい友愛に、坂本会員も去り難い思いのようでした。



会員卓話「リゾートについて」

職業奉仕委員長 児玉武文

“私の職業”と題して、先日武政会員の卓話を予定しておりましたが、ご欠席のため、職業奉仕委員長の私が代役をいたします。

私の職業柄、リゾートについてお話をしたいと思います。

全国各地でリゾートブームですが、一体、リゾートとは何なのでしょうか。

良好な自然条件を有する相当規模の地域で、余暇等を利用して滞在して、スポーツ、レクリエーション等心身のリフレッシュが図れる施設機能のあるところである、といわれています。

ご承知のように、リゾート法（総合保養整備法）の制定によって、俄かにクローズアップされたわけです。

昔から、温泉地等似たようなものはあったわけです。

日本が経済的発展を遂げてだんだん経済的大国になるに従い、いわゆる経済摩擦問題が発生し、日本の輸出依存型の経済機構を、内需拡大、内需依存型に転換しなければならなくなりました。こうした対外政策上の要請に応えるためにも、従来の重厚長大の産業構造から、リゾート産業に企業の多角化の一つとして参入をしてもらう、また、日本の人口がやがて21世紀には長寿化・老齢化して来る等々の問題もあって、リゾートがクローズアップされて来たわけだと思うのです。

整理をしますと、リゾートブームの背景には経済成長による所得の向上、週休2日制等の定着による余暇時間の拡大、そして仕事は仕事、余暇は余暇として考える意識の変化等のリゾートに対するニーズの増大があると思います。

また、九州新日鉄の例に見られるように、事業の多角化の一つとして、リゾート開発に対する企業の積極的な進出の面があります。

また、地方は地方として、地場産業も円高等の問題もあって、リゾート開発に地域経済の活路を見出したいという要請もあり、こうしたものがあって今まで全国各地が挙げてリゾートするわけです。

宮崎一つ葉リゾート開発のため、昨年12月第3セクターが設立され、38階建のホテル・

ゴルフ場・国際会議場・ウォーターパーク等、第1期工事として680億円の投資が行われ、平成4年の全国高校総合体育大会（宮崎県で開催）に合わせて完成する予定です。

リゾート産業には種々の問題があります。

初期投資額が莫大で、短期間の回収は困難で息の長い事業です。

現在の日本の需要面を考えると、今後増大の見込みはあるものの、週休2日制等の定着があっても、なお正月休み、夏休み等の一時集中型で、通年の需要は不安定であります。

また、この産業はストックが利きません。

ホテルの部屋は今日売れるけれど、連夕に売れないわけで、在庫も利かない等々です。

リゾート開発が地方にもたらす効果は、以前にもゴルフ場のことでの話をしましたが、雇用効果・生産活動効果・税収効果等が期待されます。

先日上京時、たまたま早朝浜松町の駅でサラリーマンの出勤風景を見て、種々と考えさせられました。私は昭和33年頃東京に在学し、当時の情況を想い起こしました。

当時は決して物質的には恵まれた環境ではありませんでしたが、サラリーマンが朝から駅のホームでサンドウィッチを片手にジュースを飲んで朝食代りにしたり、ましていわんや駅の近くで“そば、うどん屋さん”的営業が朝から成り立つようなことはありませんでした。

一体、高度経済成長とは何か？ 真の豊かさとは何か？ 文明の進歩とは人間にとて何なのか？ スピードとは何なのか？ 等々考えさせられました。

きっと近い将来日本人は、今のこうしたものに気付き、反省し、意識が變る。仕事も大事にする反面、真の豊かさを求めて余暇も豊かに生きようとする……。

そうしたものが拡大し、リゾートの需要は徐

徐にと拡がり一挙に加速する。

日本人の外国旅行は、昨年約850万人、ここ1~2年で急増しております。

リゾートの需要を触発するのは、そうした意識の変化に加えて、安くて質の良いリゾートの出現だと思います。

一般の企業ベースでは厳しい、国家的立場からのリゾートの開発——南仏ラングドック、ルーション——の例があります。

安価で、1月の生活費にプラス1月分位の出費で、1ヶ月位の間家族揃って日常の生活圏と離れて、心身をリフレッシュできるようなリゾートの提供、これをどう実現するのかが課題であり、また今日のリゾートだと思います。

企業も、国も、自治体も、それぞれの対応の役割を担わねばならないのでしょうか。



1988~89年度 I.G.F.

第3分科会報告

濱田 松太郎

本件につきましては、予め本クラブよりアンケートが提出されていまして、会員数も少ないと等創立なお浅き関係等もあって、未だ海外との姉妹関係、青少年学生交換等未実施である旨報告されていますが、将来は先ず会員増強を図りながら、財政的にも足腰の強い活力を満ちたクラブ結成に向って、正規の活躍がなされるよう邁進せねばいけないと、本会に出席して見てつくづく痛感いたしました。しかし、理想と現実はなかなか容易なことではないとも思いました。

さて、会議の内容については、何れその内に詳細に報告されますが、「地域社会の国際化に

ロータリアンは如何に対応すべきか」というテーマの下に意見を述べられ、それに対し、「地域社会の国際化」とは、限定された地域で相手のことも考えながら交流を図るのか、又は集団地的な国際化なのか、個人的な国際化なのか、あるいは大小都市における国際化なのか、結論は判然としないところもありました。

思うに、日本は四面海に囲まれ、永い間鎖国ということもある、言葉の違いやその他毛色の違い等のことも手伝って、諸外国に比し著しく国際化が遅れていることは否めません。

欧米諸国は陸続きで国境を接し、容易に往来することができるので、その点国際化が非常に進んでいるようです。

次に、宮崎北RCの長友会員（現宮崎大学名誉教授）より、秋そばの品種改良に成功され、世界の学者の注目されるところとなり、3年ごとに学会を世界各地において実施され、国際交流を遂げつつあると詳細に報告されました。結局どんなことでもよいから突込んで研究し、それが何等かの形で国際交流につながり、国際理解を深める一助になる旨報告されました。

また、えびのRCの迫田会員は、若い頃蒙古新聞記者として活躍され、身をもって国際交流のかけ橋として親善に尽くされた旨報告がありました。その中で、蒙古の人たち曰く、日本の文化は絵に書かれた「移出された文化」である、ということでした。

これは、蒙古の人が日本を訪れて感じたままを表現したのだそうですが、正にその通りだと思いました。

次いで延岡RCの井上会員は、延岡市は多年米国のメボホーム市と姉妹関係があり、今日まで交換学生を過去12回実施され、今日もまだ継続中である旨報告されました。ロータリアンとしての国際交流は前向きに考えねばいけない

いが、手続上のことでの残念に思うこともあった旨報告されました。

延岡東RCの押領司会員は、交換学生が外人と言われることを一番嫌う、そして、日本人はイエスかノーが判然としていない旨報告されました。

都城西RCの加治屋会員は、カナダ国トロント市の交換女子学生のホームスティをされ、余計な干渉をしなかったこと（一切ノータッチ）が、却って本人のありのままの生活をしてもらって大変結果的に良い成績を挙げることができた旨報告されました。

以上で前半を終了し、休憩の後、後半が再開されました。

先ず、針貝リーダー（小林RC）より、今後国際交流をしようと思うRCがあるかどうかを問われました。

宮崎北RCの日野会員は、RCに入会されて日の浅い関係もあり、この制度は全体像がよく解らない、そして過去のデーター等具体的なことが理解されていないので、どのような形で（ホームスティ）やればよいのか教えてほしい旨質問的なことを発言された。

延岡RCは記念事業として継続する旨、前向きの姿勢を示されました。

また延岡RCの有村会員は、6年前から韓国第370地区と交流しているが、相手が欲している書籍・医学書を毎年持参して大変喜ばれていた旨報告がありました。

都城RCの牛鼻会員からは、韓国RCと交流し、夫婦・子ども・交換学生6名、そして訪問を毎年実施して成果を挙げている旨報告されました。

最後に宮崎北RCの長友会長より、この制度についてのあり方、考え方が曲がり角に来ているのではないだろうか、ロータリーに対する世間一般の目がだんだん色褪せて来たように思う。自費でどしどし外国へ行けるようになった現在独りロータリアンだけが取り残されているように思えてならない。それは、毎年韓国渡りと交流を図っているが、毎年、来る人も住む人も全く同じで、何も殊新しく変っていない。根本的には全く同じという印象を与えている。

このあたりで、この制度についてもう一度原点に立還って再考してみる必要があるのではないかろうか、というような主旨の発言がされました。

以上でフォーラムを終了し、少憩の後、各分科会毎にリーダーより報告があつて全日程を終了しました。

このたび、IGFに初めて出席して感じたことは、折角大変な経費をついやし、立派な会合が行われ、ロータリアンとしての勉強会合が毎年実施されているのに、何等かの理由はあるにせよ、これまで無関心であった僕は恥ずかしい限りありました。

これからは事情の許す限り出席して、他クラブの先輩ロータリアンと知り合いを深め、一つずつでも勉強せねばいけないと、年のことを忘れてつくづく思う今日この頃であります。

第71回例会 3月24日（金）

出席報告

会員数	18名
ホーム欠席者数	8名
ホム欠席者数	10名
ホーム出席率	55.56%
メークアップ者数	0名
欠席者名	日高・上田・立山・斎藤 鈴木・武政・蛇原・正岡